

平成 27 年度

全国学力・学習状況調査の
結果について



海老名市立社家小学校

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「理科に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 4
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 5
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 6
(資料) 学習・生活習慣と学力との関係	P. 7



全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが、平成25年度から再び全国すべての小中学校が対象となりました。なお、今年度実施された「理科」については、3年に一度実施されるものです。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒

- ・小学校第6学年
- ・中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)
理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

【中学校】

国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)
理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？
これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？
身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査 学習意欲、学習方法、学習環境
生活の諸側面等に関する質問
- (3) 学校に対する質問紙調査 指導方法や取組、人的・物的な
教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成27年4月21日(火)



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「書く能力」に優れている。
- 漢字を読む問題において、「招く」「信念」を正しく読むことがとてもよくできている。
- 文を構成する主語「何は(が)」と述語「何だ」「どうした」「どんなだ」の関係について、相当数の児童が理解できている。
- 説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選択する問題において、相当数の児童が具体的な事例を挙げて書くことが効果的であると理解できている。

《努力を要する所》

- 「話す・聞く能力」「読む能力」に努力を要する。
- 漢字を書く問題において、第4学年の既習漢字である「あびる(浴びる)」に誤答や無解答が多く、課題がある。
- 文の中における主語を捉えることに課題がある。
- 話の内容に対する聞き方を工夫することに課題がある。
- 新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉えたり、筆者が引用している言葉を書き抜いたりすることに課題がある。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「読む能力」に優れている。
- 文章の中から、難しい言葉とその意味について書かれている内容を捉える問題において、相当数の児童が、目的に応じ、中心となる語や文を捉えることができている。
- 物語文において、登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉えることができている。
- 物語文において、登場人物の気持ちの変化を想像しながら声に出して読むときの工夫とその理由を、条件に合わせて書くことがよくできている。

《努力を要する所》

- 「書く能力」に努力を要する。
- 学校の様子を新聞にまとめる問題において、目的に合わせて割りつけをしたり、記事に見出しをつけたりすることに課題がある。また、取材した内容を整理しながら、条件に合わせて書くことに課題がある。
- 文章と図を関連づけて、自分の考えを書くことに課題がある。

今後の具体的な取組

- 話す・聞く力を高めるために、常に話し手の意図を捉えながら聞くことを指導するとともに、自分の考えを伝える機会をさらに充実させます。
- 読む力を高めるために、読書活動を充実したり、朝のスピーチの題材などとして新聞記事などを活用したりしていろいろな文章に触れる機会を増やします。
- 書く力を高めるために、引き続き、学習の振り返りをノートに書く、決められた条件で文章を書く、自分の考えを書くなど、工夫して取り組みます。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 整数、分数の四則計算や加法における計算の確かめの方法については、相当数の児童ができています。
- 直角を基にして角の大きさを捉えることは、相当数の児童ができています。
- 示された三角形が二等辺三角形になる根拠を円の性質と関連付けて判断することができています。
- 円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めることができています。

《努力を要する所》

- 計算の結果のおよその大きさを捉えることや末尾の位のそろっていない小数の減法の計算に課題がある。
- 日常生活の中で必要となる時刻を、条件を整理して求めることに課題がある。
- 分度器を用いて、角の大きさを正確に測定することに課題がある。
- 見取図と展開図を関連づけて、立体図形の辺や面の位置関係を捉えることに課題がある。
- グラフに表されている事柄を読み取ることに課題がある。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを正しく判断することは、相当数の児童ができています。
- 正三角形や合同な三角形の性質を基に、ある角の大きさが決まる理由を記述することはよくできています。
- 四捨五入して千の位までのおよその数にして計算することはできています。
- 切り上げた場合の見積もりの結果を基に、目標に達しているかについて判断することはできています。

《努力を要する所》

- 作図に用いられる平行四辺形の性質を判断することに課題がある。
- 二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見だし、その図形の性質を言葉と記号を用いて書くことに課題がある。
- 示された情報から、割合の関係を正しく捉え、基準量を正しく求めることに課題がある。
- 概数を用いた見積もりの結果とそれに基づく判断を理解し、集める必要個数の理由を記述することに課題がある。
- 分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述することに課題がある。

今後の具体的な取組

○引き続き、朝自習や家庭学習の場を利用して繰り返し学習することで、基礎基本の定着を図ります。

○身体を使ったり、具体物を用いたりする活動や考えたことを表現する活動を工夫し、学習したことを日常生活で活用できる指導を充実します。

○根拠となる事実や判断の理由を言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて説明する活動をさらに多く取り入れます。



理科に関する調査結果

《優れている所》

主として「知識」に関する問題



- 顕微鏡の名称がよく理解できている。
- 「水蒸気は水が気体になったものであること」「水が水蒸気になる現象についての科学的な言葉や概念」についてよく理解できている。

主として「活用」に関する問題

- 打ち水の効果について、グラフを基に地面の様子と気温の変化を関係づけながら考察して分析できる。
- 生物の成長に必要な養分の取り方について調べた結果を、視点を持って考察して分析できる。
- 振り子時計の調整の仕方を調べるための実験について、条件を制御しながら構想できている。

《努力を要する所》

主として「知識」に関する問題



- 顕微鏡の適切な操作方法が身につけていない児童が多い。
- メスシリンダーの名称や定量の水をはかり取る適切な扱い方を身につけていない児童が多い。
- 月は1日のうちに形は変わらないが、位置が変わることの理解に課題がある。
- メダカの雌雄を見分ける方法の理解に課題がある。

主として「活用」に関する問題

- 析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察しその内容を記述することに課題がある。
- 方位を判断するために、観察した事実と関係づけながら情報を考察して分析することに課題がある。
- 植物の適した栽培場所について成長の様子と日光の当たり方を適用してその内容を記述することに課題がある。
- 水の温まり方を考察するために実験結果を基に自分の考えを改善することに課題がある。

今後の具体的な取組

- メスシリンダーや顕微鏡などの実験器具を扱う実験や観察をする機会を増やしたり、一人一人ができるだけ操作できるように器具の数を充足したりします。また、実験や観察の準備を児童が主体的に取り組めるような指導を工夫します。
- 月や星、太陽の観察と社会科の方位の学習の関連をはかったり、日常から方位について意識させたりします。また、家庭と連携し、月や星の観察ができるよう工夫します。
- 身の回りで見られる自然や日常生活の事物・現象について、どのように変化をするのかを捉えたり、学習した内容を適用して考えたりする経験を多くします。
- 予想を立て実験や観察をして得られた結果を基に考察し、自分の考えを表現する活動をより一層重視します。

児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 学習に対する関心意欲が高い。
 - ・9割以上の児童が国語・算数の勉強は大切だと感じている。
 - ・国語・算数・総合的な学習は、将来社会に出たときに役に立つと考えている。
 - ・特に算数の勉強が好き、解き方がわからないときあきらめずにいろいろな方法を考える、問題を解くときもっと簡単に解く方法がないか考える、などの項目では、全国平均よりも高い割合になっている。
- 学習のルールが身についている。
 - ・友達と話し合うとき、友達の意見を最後まで聞く(94.8%)。
 - ・家で宿題をする(100%)。

《課題と思われる所》

- 理科に対する関心意欲は高くない。
 - ・理科の勉強は大切、理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ、の割合は、国語・算数に対する意識よりも下回っている。
 - ・将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思わない(76.6%)。
- 表現活動に自信がない。
 - ・友達の前で自分の考えを発表することは得意ではない(52%)。
 - ・400字詰め原稿用紙2~3枚の感想文や説明文を書くことは難しい(57.2%)。
 - ・自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることは難しい(55.3%)。

生活について

《よかった所》

- 規範意識が高い。
 - ・学校の決まりを守っている(89.7%)、いじめはどんなことがあってもいけないこと(98.7%)、人の気持ちがわかる人になりたい(97.4%)、人の役に立つ人間になりたい(97.4%)の項目で高い割合になっている。
- 自尊意識が高い。
 - ・自分にはよいところがある(93.5%)、ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある(98.7%)、難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している(85.7%)の項目で高い割合になっている。
- 家庭の協力が得られている。
 - ・朝食を毎日食べている(97.7%)、家の人が学校行事に来る(96.1%)。

《課題と思われる所》

- テレビなどを見ている時間が多い。
 - ・テレビ・ビデオ・DVDを見ている時間で、1日4時間以上が26%、72.8%の児童は、2時間以上見ている。
- 地域との関わり・社会への興味関心が低い。
 - ・地域の行事に参加していない(48.1%)、地域や社会で起こっている出来事には関心がない(46.8%)、地域や社会をよくするために何をすべきか考えていない(72.4%)、新聞を読まない(79.2%)となっている。

今後の具体的な取組

- 小・中9年間を見通し、保護者と連携して、学年の実態に応じて計画的に家庭学習に取り組めるようにすることや生活習慣のルールの定着をめざします。
- 低学年から、生活全般の中で自分の考えを表現する場を取り入れたり、授業のまとめで自分の考えを記述する活動を取り入れたりします。また、自分の考えを持てるようにしたり、考えを表現したりすることができるように、指導の工夫に取り組んでいきます。
- 地域への関心が高まるよう、地域のことを知る学習の充実に努めます。また、家庭や地域と連携し地域行事への参加を呼びかけていきます。



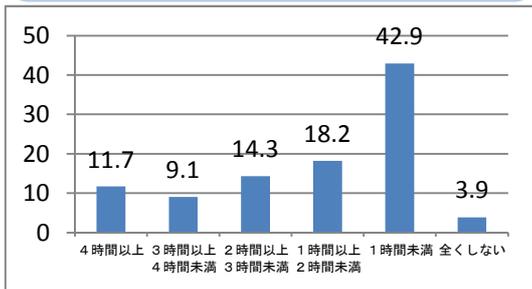
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

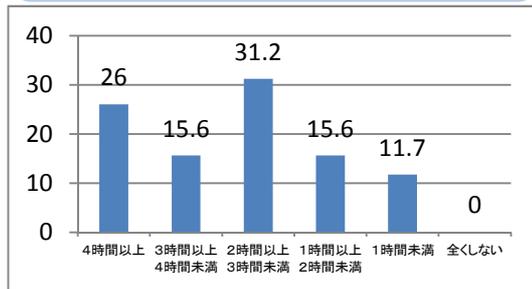
1 テレビを見たりゲームをしたりする時間は大丈夫ですか？ 親子で話し合い、ルールを決めましょう。

家の中でテレビを見たりゲームをしたりして時間を過ごすのではなく、外に出て、体を動かすことで、十分な睡眠がとれ学習に集中したり、体力が向上したりすることにつながります。

普段、1日当たりどれくらいの時間、
テレビゲームをしますか。



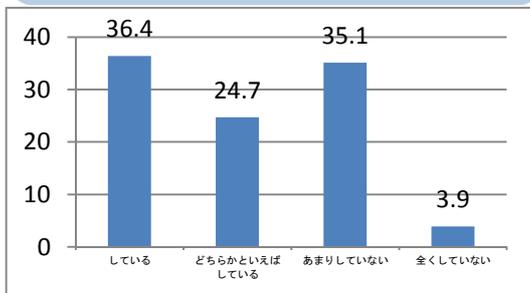
普段、1日当たりどれくらいの時間、
テレビやビデオ・DVD を見ますか。



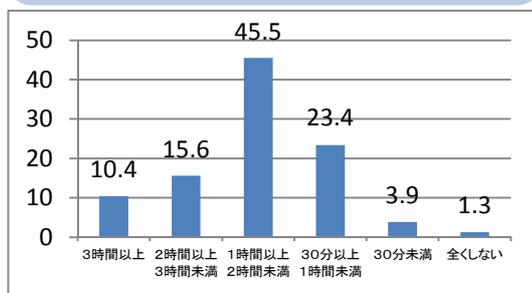
2 家庭学習の習慣を身につけましょう。 毎日、『10分間×学年』が目安です。

学校では、1年生の時から、家庭で学習する習慣を身につけさせる取組をしています。ご家庭で宿題の確認や励ましの声かけをお願いします。

家で自分で計画を立てて勉強していますか。



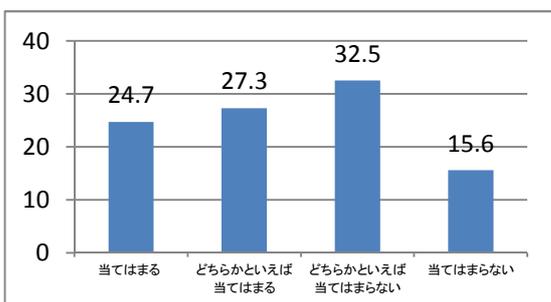
普段、授業以外にどれくらいの時間
勉強しますか。



3 地域との関わりを 深めましょう。

子どもたちは、地域のよさに触れ、様々な関わりの中で成長します。

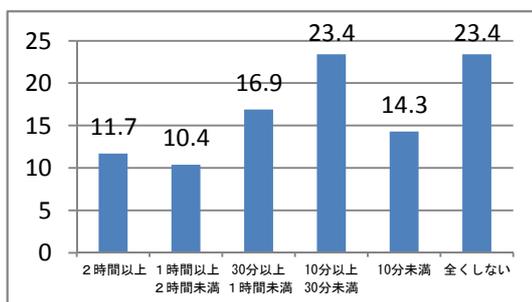
今住んでいる地域の行事に参加していますか。



4 いろいろな本を 読みましょう。

読書には、発想力が豊かになる、脳が活性化する、コミュニケーション力が高まるなどの効果が期待できます。

普段、授業以外にどれくらい読書をし
ますか。



文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

児童・生徒の学習・生活習慣と学力との関係

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数、理科に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて勉強をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の方は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【メディアとの関係】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い



平成27年11月